

機械科学専攻	研究分野	熱システム	Lab. ID ME05			
研究室Webサイト	https://fluid.w3.kanazawa-u.ac.jp/					
研究課題の概要						
熱流体現象に関連した様々なテーマを取り扱っています。例えば、[1]航空機・宇宙機周りの流れ場(圧縮性流れ)、[2]自動車などのブラフボディー周りの流れ場(非圧縮性流れ)、[3]再生可能エネルギーへの応用(地熱・流水熱を利用した熱交換器、風力発電機の風車翼型etc.)など、高速から低速までの多様な熱流体現象を、熱流体シミュレーションなどを用いて研究しています。また、銀河・分子クラスタなどの非平衡緩和プロセスに代表される不可逆現象を、理論・数値解析の両面から研究しています。						
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等						
<p>●基本的に、学生各自のアイディアに基づき、熱流体現象に関連した研究課題を決めます。研究課題を選定するため、院生は指導教員と綿密な議論、検討を繰り返します。尚、研究プロジェクトなどが進行している場合は、そのプロジェクトに関連した研究を、研究テーマとする場合もあります。</p> <p>●毎週、一人1時間程度の進捗報告、およびディスカッションを行います。</p> <p>●流体工学研究室(熱システム+流体力学)として、流体力学講座と合同で、週1回のゼミを実施します。はじめに、研究の進捗報告、今後の研究計画および関連する研究論文の紹介を院生が発表します。その後、教員とのディスカッションとなります。このゼミを通して、流体工学研究室の教員全員で、修士論文の研究を指導します。</p> <p>●院生には、4年生の指導・サポートも求められます。例えば、4年生の中間発表(7月、12月)の1ヶ月程前から、院生全員で4年生の発表練習を指導します。</p> <p>●研究会および学会の運営、オープンキャンパス、てくてくテクノロジーなどにも参加します。</p>						
研究室生活の紹介等						
私たちの研究室では修士ゼミや各研究の参考になるゼミが設けられ、様々な知見を得ることができ研究成果の向上に役立てています。また、学生間の交流も盛んであり、研究に関するアドバイスや息抜きのためのイベント等に積極的で、充実した研究生活を送っています。[M2]						
金属の凝固に関する研究を行っています。研究の息抜きに週に2回社会人バスケットボールチームに参加し汗を流しています。[M2]						
自由闊達な雰囲気で、学年や研究内容に関わらず、学生間で活発な議論が行われています。[M2]						
教員からのメッセージ						
自分のアイディアに基づく研究課題を基本的に研究します。自由で良い環境のようにみえるかもしれません、実際は厳しい研究環境になると予想されます。学部4年生から博士前期課程(2年間)まで在籍する場合、3年間、このような環境下で研究室生活を送る(耐える?)ことになります。このため、より良い大学・大学院生活を送れるように、本研究室を希望する学生は、事前に相談してください。						
[修士号取得後の就職先] 主に製造業などの一般企業(デンソー、サントリー、パナソニック、YKK、トヨタ自動車 etc.)						
研究室連絡先メールアドレス		小松信義 <komatsu *at* se.kanazawa-u.ac.jp>				